

第三章 6) サンタ・テレザ耕地

(モジアナ線グアタパラ〜リベイロン・プレート 駅その駅の2つ手前のサンタ・テレザ駅)

【戦前にサンタ・テレザ耕地で就労した人々】

*鞍谷三郎通訳と第3移民、巖島丸（「移民40年史」）

*林美茂、1912年5月、巖島丸（第3回移民）（「平野25周年史」）



サンタ・テレザ駅

7) バレイロ耕地（メンドンサ駅）（グアタパラ耕地からでは次の駅）

【戦前にバレイロ耕地で就労した人々】

*東野音市、通訳と第4回移民（「移民40年史」）

*祝嶺（しゅくみね）賢啓、1918年7月、若狭丸、沖縄県中頭郡出身、入耕就労後転々移転後年サン・カーロス市落ち着き養鶏、蔬菜等営農。（「ブラジル日系紳士録」680ページ）

*曾根原進、1937年7月、長野県南安曇郡（「信州人のあゆみ」）

*木村政、1929年10月、ハワイ丸、熊本県菊池郡菊陽町津久札出身、木村徳次氏の家族構成員、同駅ピラジュ耕地で義務農年遂行後、ノロエステ線を経てブラ拓が分譲したバストス移住地に入植するが、将来を考慮し

てパラナ州トレスバラス移住地に移転する。（「熊本県人発展史」697 ページ）

*堀田藤吉、1929 年 10 月、ハワイ丸、熊本県本渡市出身、同駅メンドンサ耕地で就労すること 2 ヶ年後、サン・マルチーニョ耕地に移り借地で 7 年間農業に従事する。（「熊本県人発展史」535 ページ）

*船山文一郎、1929 年 12 月、ブエノスアイレス丸、広島県三次市和田町向江田出身、メンドンサ駅ピラジュ耕地で 1 年 8 ヶ月就労後、同駅管内サン・マルチーニョ耕地の原始林 1 千 8 百アルケールを他の 22 家族と共に開拓し、綿、米を栽培する。（「ブラジル広島県人発展史」70 ページ）